

どんぐり工房だより

〒284-0005 四街道市四街道 1-6-11 田中ビル3階 TEL&FAX043-421-6645

E-mail:kibou_donguri@ninus.ocn.ne.jp HP:http://kibou-donguri.org



謹賀新年



本年もよろしくお願いいいたします

ちばユニバーサル

農業フェスタ 2020 in 四街道

昨年の 12 月 5 日(土)、四街道市文化センター広場にて開催された「農フェス」に出店し、小雨降る中多くの来場者の皆様にどんぐり工房の製品・商品をお買い上げ頂きました。

当日販売を担当したメンバー(どんぐり工房利用者)も、この日のために制作・製造にかかわったメンバーも大変励みになりました。

ありがとうございました。

どんぐり歌壇

小林 修

◎人はみな 出会いと別れ繰り返して
一期一会を大切にしよう

◎今年また カレンダーどおり年明け
しかしコロナが 明けるとはいつ

◎鯛焼を 食べたいと母話すけど
たいやきくんは 忘れたみたい

受給者証の期限は 切れていませんか？

今一度、ご確認をお願いします。
ご不明な場合は、遠慮なくお問い合わせください。

どんぐり工房の
皆さんへ

～ お知らせ ～

NPO法人希望の事務局業務を担当していましたが大淵義明事務局長は、令和2年12月5日をもって退職いたしました。お世話になりました。

後任は、中山潤一が担当しますので、引き続きよろしくお願いいたします。



2021年

夢

目標

私の

幸

せいななねのめいじ
精進する。
夢を追う旅人

健

康に気をつけて
毎回通えるように
したいです。N子

私

の今年の目標は、
どんぐり工房に
週に五回来れるように
なることです。
M・S

一

人でお金の管理をし、
貯金をして、一人旅が
出来るように頑張りたいです。
目標達成出来るようように
頑張りたいです。
H

彼

氏をつくる事
N

健

康であることと
就職先を
見つける T・O

デ

イズニールランドに
お兄さんと三人で
行きたいです。チャコ

今

年は、
ダイエットを頑張って
やせたい YUI

ど

んな事があっても
一歩ずつ自分の進む道に
むかって前進する
N

今

年の目標は、基本情報
技術者試験の合格と
ジョギングの習慣化です。
by あおきんぐ

高

校までの学習内容を
復習することにも、
アルバイトを始めることが
目標です
JUNO

体

調を安定させて
就職する。
コロナが早く落ち着いて
くれるといいなあ。JUEI

ど

んぐり工房に、
一年間毎日通い続けて
脅迫症状を和らげる。
りきやん

が

んばりすぎず
りきまない
考えても、考えすぎない。
M・M

家

を一軒建て
妻をめとい、
猫を一匹飼いたい。(T)

「最初の記憶」

オレンジ色に光る数字がぐるぐる表れては消えていく。ソーセージくらいの大きさのガラス管の中に、数字の針金がたくさん入っている。「電気」の通じた針金が熱くなると、その数字がオレンジ色に光る。そんなガラス管が縦に4本、シャーシに刺さっている。

イチ、ニヤ、ヨン、パー。イチ、ニヤ、ヨン、パー。

数字の中で好きなのは「2」。歌の通りの形をしているから。

オレンジの数字はテレビや絵本とは違う。テレビも絵本もアヒルが2羽書いてある。でも、オレンジの数字は数字しかない。数字しかない「2」だ。なんの個数も表していない。

シーキューシーキュー。ジエイエーワンジーキューエックス。シーキューシーキュー。ジエイエーワンジーキューエックス。

ガラスの中に空気はない。

(大熊寛春)

紅梅も花咲けばよい
春を告げるものなり
白梅も花咲けばよい
時も過ぎぬものなり

(一)

地元の人 九四回

(地元の人：A アナウンサーB)

B「黙って歩いていさえずれば普通の人に見えるのか誰も私に興味を持つ者はいない、いてもなくてもどちらでもかまわない、何も主張しなれば社会は寛容である、わずかな時間でしたけれど、本屋で恥ずかしい本を買い求めようように他になにも関係のない雑誌の間に挟みレジへ向かいました、医学に関する報告の一片に衝撃を受け内緒のように黙って本を買い求めました、私は会社に勤めていたが社会になんら益を与えただけではない、ただ働いた、それだけでした、何人かの名前は覚えてたけれど会社の先輩方々でわずかに話したことはあるけれど別に親しくつきあった人はいない、その時無職であることを誰かに伝えたら人は私をどう眺めただろう、もう一度喫茶店に入った、店のチーフと思われる男性は変な顔をした、この日二度目であるから怪訝に思われたのかもしれない、私は本を抱えたまま袋から雑誌を取り出すことはできなかった、コーヒートを頼んだが落ち着くことが出来ない、落ち着けない、社会とはそういうものだ、そう考えた、勘定をすませ早々に退散し情けない思いで家に帰ってきましたが『何処へ行っていい』その一言で風呂にも入らず自室へ戻った、雑誌は枕もとに置いた

が一度と読むことはありませんでした、もう一度職に就いた時その雑誌は捨ててしまった、何が書いてあったのか、それすら忘れた、それから今の職に就くまでの一〇年間何も考えることなく働きました、私事は何も無い、仕事が終われば借問に帰る、それだけではつまらないから赤提灯に寄る、そんなことは覚えませんでした、一〇年の間何をしていたか、私でも答えようがない、酒の味を覚えた、それだけでも知れなかった、借問だから隣近所と親しまなければならぬが、と言っても挨拶を交わしたことも無い、朝早くに部屋から飛び出し普通の家では夕食も到底終わつたころに帰ってきました、この家のご主人方々も普通定時では終わらない、残業もこなさなければならぬ、帰ってくるのも遅くなる、それはどこにでもある、私ばかりではありません、毎日仕事をこなす、それは当たり前のごとです、当たり前前のごとを繰り返していた、ですが何か不足を感じる、考えることの際間が無い、読書さえできない、教養の為ではない、自身を探る、それが必要に思われた、ただ無闇に本を読んだところで意味が生ずるか、労働する私に必ず必要なのか、なんということなく読み捨てていた文章が身に染みる、それ以外のこのことで酒飲みでうしてわずかな時間を通す、それも楽しみでした」

(一)